

『地域密着型金融の取組み状況』

(推進期間：平成20年4月～21年3月)

大分信用金庫

地域密着型金融の取組み状況 (20年4月～21年3月)

(金融機関名 大分信用金庫)

1. 項目	1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化 (1) 創業・新事業支援
2. タイトル	開業くん(創業支援)、開拓くん(新事業支援)の商品推進 相談業務によるサポート強化
3. 動機(経緯)	創業・新事業支援(スタートアップ企業)への取組みは、信用金庫として最大の機能発揮です。そのためにも創業・新事業支援の事業計画策定から、融資実行後の定期的な計画に対しての実績推移等のフォローを行い、一体となった支援を行っています。最終目的は「おおいたブランド」事業所づくりによる地域経済の活性化、新会社、新雇用、新職場の創出が目的です。
4. 取組み内容	1. 創業支援資金「開業くん」、新事業支援資金「開拓くん」の取組み。創業・新事業支援のプロパー商品のネーミングを親しみやすいものにして、職員の目利き能力向上を図りながら推進しています。なお、商品限度額を超えるものや相談内容に応じて保証協会の制度融資の提案や案件に応じたオーダーメイドの融資で対応しています。 2. 取引先の新事業展開などに対して、県の経営革新制度などの公的支援策を積極的に紹介して、ビジネスプランの実現性を高める取組みをしています。
5. 成果(効果)	創業支援資金残高 17件 29百万円(平成21年3月末) 新事業支援資金残高 2件 7百万円(平成21年3月末) 景気の悪化に伴い、取り扱い金額は伸びていないものの、創業支援資金において6件の取扱件数増加をしています。また、商品ネーミングをつけて分かり易くしたことで、上記の動機づけ目的に対して、幅広く創業・新事業支援が出来る体制としています。
6. 21年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済環境の悪化に伴い、創業や新事業案件が減少していますが、的確な金融仲介機能を発揮するため、大分県信用保証協会と事前打ち合わせ会議、創業・新事業者と密度の高いコミュニケーションを通じて、経営実態とビジネスプランを的確に把握し、段階に応じた支援取組みをしていきます。 ・ だいしん「矢車会」「大分デザイン会議」等の組織化運営を通じ、ビジネスマッチングの支援強化をしていきます。 ・ 国、県の支援策を積極的に活用するよう取引先をサポートします。
7. 添付資料	
8. 備考	

地域密着型金融の取組み状況 (20年4月～21年3月)

(金融機関名 大分信用金庫)

1. 項目	2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底 (1) 担保・保証に過度に依存しない融資等への取組み
2. タイトル	「迷わず信用金庫する」
3. 動機 (経緯)	経済合理性を超えて第三者に保証を過度に求めることがないように「小口融資推進マニュアル」の勉強会、研修を通じて職員の審査スキルの向上を図っています。
4. 取組み内容	1. 平成19年度取扱開始した担保・人的保証に依存しない融資新商品8種類に続き、平成20年度は以下の新企画商品を投入して、取引先のニーズに応じた多様な融資提案を行いました。 (中小企業以外の個人を含む企画商品) ①農業経営資金(10月取扱開始) ②環境保全サポートローン(3月より取扱開始) 2. 緊急保証などの公的保証制度を積極的に推進し、中小企業の担保・人的保証に係る負担の軽減と公的支援の活用を図りました。 3. 年末(12月)・年度末(3月)に中小企業向け休日特別相談窓口を開設し、資金繰りなどの相談に応じました。
5. 成果 (効果)	1. 新商品取扱実績 平成19年度取扱開始融資新商品の平成20年度中実績 469件/870百万円(融資実行額) 平成20年度新商品 農業経営資金 1件/5百万円 2. 保証協会付融資実績 年間増加額12億円 うち緊急保証取組実績377件、32億円 3. 休日窓口相談日 計6日間(のべ102店舗) 計19件の相談受付
6. 21年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担保・保証に過度に依存しない融資の促進を図るため、取引先ニーズに応じた商品企画と「小口融資推進マニュアル」勉強会等にて、職員の審査スキルの向上を図っています。 ・担保や人的保証力の脆弱な中小企業向けに、公的保証制度などの支援策活用を積極的に提案していきます。 ・経済合理性を超えて第三者に保証を求めることがないように、適切な取扱について会議等を通じてさらに周知徹底していきます。 ・貸出、保証契約の内容等重要事項に関する説明責任を十分に果たすよう更なる態勢整備を行います。
7. 添付資料	
8. 備考	

地域密着型金融の取組み状況 (20年4月～21年3月)

(金融機関名 大分信用金庫)

1. 項目	3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献 (2) 地域活性化につながる多様なサービスの提供
2. タイトル	①「地域の利用者の利便性向上」 ②「地域賑わいづくり」
3. 動機 (経緯)	①地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立に向けた取組みをしています。 ②「地域性」を重視する当庫としては、「地域賑わいづくり」を地域活性化のための具体策として、年間スケジュールに沿って継続して実施しています。
4. 取組み内容	①「一言ボックス」「お客様のご意見カード」アンケートで職員の挨拶・窓口の対応ぶり・事務取扱・待ち時間・商品説明・営業店の印象は、等の利用満足度調査を行っています。 ②理事長経済講演会、大分デザイン会議、リトル B 活動、信友会、経済研究会、少年サッカー大会、ミニバレーボール大会、だいしん元気会、お祭りクラブ行事参加等のイベントを単年度で終わることなく継続して実施しています。
5. 成果 (効果)	①質問・相談内容および回答一覧表を作成し、関係部署に回覧すると共に、コンプライアンス対応委員会に報告、かつお客様への対応や職員への指示など迅速に対応することで、地域からより信頼され満足いただける金融機関を目指しています。 ②理事長経済講演会 10 会場開催、大分デザイン会議合同行動 13 回お祭り参加等 25 会場で行いました。各行事参加も 20 年近くにわたり継続することで、地域に根ざした「地域賑わいづくり」となっています。
6. 21年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	①地域密着型金融機関として、地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営を確立するために「一言ボックス」アンケートの苦情等、苦情の内容、経緯、顛末を取りまとめ、諸会議で検討するとともに全役職員へ周知を図り、対応しています。 ②当地の経済づくり、社会づくり、文化づくりに寄与するため、地域と一体となったイベント関連、組織化関連、その他の分野でリレーションを更に深める行動、活動を行っています。
7. 添付資料	
8. 備考	

経営改善支援等の取組み実績

大分信用金庫

【20年4月～21年3月】

(単位:先数)

(単位:%)

		期初債務者数 A	うち 経営改善支援取 組み先数 α	αのうち期末に債 務者区分がランク アップした先数 β	αのうち期末に債 務者区分が変化し なかった先数 γ	αのうち再生計画 を策定した先数 δ	経営改善支援 取組み率 α/A	ランクアップ率 β/α	再生計画 策定率 δ/α
正常先	①	13,213	0	/	0	0	0.0%	/	-
要 注 意 先	うちその他要注意先	596	0	0	0	0	0.0%	-	-
	うち要管理先	21	14	6	6	5	66.7%	42.9%	35.7%
破綻懸念先	④	51	20	0	14	0	39.2%	0.0%	0.0%
実質破綻先	⑤	64	0	0	0	0	0.0%	-	-
破綻先	⑥	45	0	0	0	0	0.0%	-	-
	小計(②～⑥の計)	777	34	6	20	5	4.4%	17.6%	14.7%
	合 計	13,990	34	6	20	5	0.2%	17.6%	14.7%

- (注)
- ・期初債務者数及び債務者区分は20年4月当初時点で整理。
 - ・債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含まない。
 - ・βには、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載。
 なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者はαに含めるもののβに含めない。
 - ・期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合はβに含める。
 - ・期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても)期初の債務者区分に従って整理すること。
 - ・期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めない。
 - ・γには、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載。
 - ・みなし正常先については正常先の債務者数に計上のこと。
 - ・「再生計画を策定した先数δ」=「中小企業再生支援協議会の再生計画策定先」+「RCCの支援決定先」+「金融機関独自の再生計画策定先」